

単元名:ペルーと日本の防災からみえる文化のちがい

氏名:向井 大嗣	学校名:田辺市立田辺第三小学校	
担当教科:全教科	実践教科:総合的な学習の時間	
時間数:9時間	対象学年:4年	人数:29人
使用教材:災害対応カードゲーム「クロスロード」・ロイロノート(授業支援ツール)		

【実施概要】

【1】単元の目標

ペルーの子供たちと自分たちの災害に対する判断の違いから異文化について理解を広げ、深めていく。

【2】 単元の評価 規準	(ア) 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ペルーの文化について理解している。 ペルーについて調べたことをICT機器でまとめることができる。
	(イ) 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> カードゲームを通して取得した、ペルーの子供と自分たちの災害時の判断の違いのデータを見て、判断の違いの理由について考えることができる。 ペルーの文化と日本の文化を比較し、それぞれの特長を捉え、異文化について考えを広げることができる。
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ペルーの文化や考え方に興味を持ち、その違いについて理解をしようとしている。

【3】 単元設定の 理由

【単元設定の理由】

授業者は、ペルーでの研修の際、フェ・イ・アレグリア33校で防災に関するカードゲーム「クロスロード」を実施した。(全11問)ペルーでの授業前に同様の授業を日本で行ったが、日本の子供たちの反応とペルーの子供たちの反応では、大きく違うものがあった。

この反応の違いの背景には、もちろん教育活動の違いもあると予想するが、それだけではない環境の違い、そして文化や宗教観の違いも大きく影響しているのではないかと考えた。

ペルーと日本で同じ教材をもとにして反応の違いを比べることで、考え方の違いに触れ、それをきっかけとして異文化について理解を深めていきたいと考え、本単元を構成した。

【児童観】

一学期後半に授業者がペルーについて訪問することを伝えると、ペルーの子供たちにむけてお土産を作る子供が多数いた。休日を使って、日本の文化を伝えようと月ごとのイベントをイラストにしてお土産を作成する子供もいた。また、おばあちゃんが最近まで近所に住んでいたペルー人と仲が良いという子供もいて、事前にペルーについてインタビューをするなど、関心を高く持つ子供も多くいた。

田辺市全体として、都心部などと比べて外国籍の子供の比率は少ないが、本校は田辺市の中では外国籍の子供が多い地域でもある。普段の学校生活においても文化や考え方の違いなどには多少ではあるが触れる経験をしている。

【教材観】

フェ・イ・アレグリア33校で授業実践をした際の反応のデータを取ることはできなかったため、研修後クロスロードゲームを、同じくペルー研修時に訪問したラ・ビクトリア校にて実施してもらった。

様々な事情によりラ・ビクトリア校での実施は中学一年生を対象に行うことになったが、そこでの反応のデータをもとに本単元の学習を行った。ただし、いきなりデータを見せると違いに大きく関心は向かないので、データを見せる前に研修中に撮影したペルーの写真の子供たちに見せ、そこからペルーについて調べてまとめる時間を取った。

注意しなければならないと感じたことは、子供たちに写真を見せるとそれをペルーの全てだとインプットしてしまうということである。子供たちに情報を与えていくときに一つ一つ子供たちの反応を見ながら、教師が説明を入れていなければステレオタイプを持ってしまう可能性があると感じる。

【4】展開計画(全9時間)

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	・ペルーについて知ろう。	・ペルーの写真を見る。 ・気になったことや発見したことはメモをする。	・ペルーで撮影した写真
2～4	・ペルーについて調べ、まとめる。	・前回の写真を見てわかったこと、また自分でテーマを設定して調べたことをまとめる。	・ロイロノート ・株式会社明治HP「比べてみよう 世界の食と文化」
5 本時	・クロスロードゲームの結果を比べる。	・結果を見比べ、その違いから分かることについて考える。	・ラ・ビクトリア校の日本語クラスの先生(美沙子さん)からのメッセージムービー ・ペルーの子供たちの回答データ
6～7	・クロスロードゲームの話し合いを通してラ・ビクトリア校の日本語クラスの先生(美沙子さん)に聞きたい質問を考える。	・学習を通して考えたことをまとめ、美沙子さんへの質問を考える。	・ロイロノート
8	・美沙子さんの回答をもとに考えたことをまとめる。	・美沙子さんからの回答を見て、発見や気づきを交流しまとめる。	・ロイロノート
9	・学習全体のまとめとふりかえりをする。	・ペルーの学習全体を振り返り考えをまとめる。	・ロイロノート

【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (10分)	①ペルーの子供たちの回答結果を見る。	・中学1年生のアンケート結果であることを伝える。	・美沙子さんからのメッセージムービー
展開 (20分)	②自分たちの回答結果と見比べる。 ③結果の違いが生まれる原因を考える。 『回答結果を比べてみよう。』	・回答数の合計に差があるため、割合を変えずに同じ数に修正している。 ・回答の傾向が同じものに注目させる。 ・回答の傾向が違うものに注目させ、その原因について考える。 ・子供たちはまだ自分の常識が全てだと思い込んでいる。異文化の考え方に触れるきっかけとして大切にしたい。	・ペルーの子供たちの回答結果(資料②)
まとめ (10分)	予想が決まったものや解決しないものについてペルーの美沙子さんに質問できるようにまとめる	・今回の話し合いから見えてきて防災に関する考え方や人との関わり方の違いについての質問を中心にまとめていきたい。	・ロイロノート

【授業実践の様子】



写真①:回答のちがいについて意見を交流する 写真②:考えた予想について発表する

【6】本時の振り返り

これまでに異文化に触れる機会がほとんどなかった子供たちなので、ペルーの子供たちのクロスロードゲームの反応にとっても関心を示していた。

質問が11個ある中で、反応が大きく異なる回答が3個あった。反応がほぼ同じ質問と少し違う質問がある中で、話し合いの方向を焦点化することが難しかった。

最も反応が違う「(9)地震が起きたので防災バッグを持って避難所に行きました。自分たちは三日分の水と食料を持っていますが、周りの家族は防災バッグを持っていないようです。お腹が空きました。みんなの前で水と食料を出しますか。」から取り上げた。学級の子供たちは大半が「出さない」だったのに対し、ペルーの子供たちは大半が「出す」という反応であった。

それに対し子供たちからは「ペルーの子供たちはやさしくて、お互いに信頼関係があるからみんなの前で出すのではないか」という予想が出された。ただ、あくまでこれは予想の範囲内なので、授業では子供たちが抱いているイメージでしかないことを押さえ、話し合いを展開していった。

はっきりとした答えが得られないまま話し合いが進んでしまったので、着地点がないと感じた子供もいたはずである。

その後の話し合いからペルーの人たちの反応を見ていると「やさしい」というイメージを抱いた子供が多かったようである。ペルーの人のやさしさについて考えた際、「キリスト教が関係しているのではないか」という意見も出された。考え方や価値観の違い、異文化について考えを広げるきっかけとなったのではないかと感じた。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

・ペルーという国の存在すら知らなかった子供たちが、調べ活動、質問に対する反応の違いを手掛かりにペルーという国、そして外国に興味を示すきっかけとすることができたと感じる。

ペルーの学習を終えて

ペルーの人達は、キリスト教をすごく大切にしているんだな—と思いました。通っただけで靴紐を結んであげたり通っただけでそこまで見てるって日本ではそんなにないのにペルーの人達はそこまで見てるなんてすごいなと思いました。ペルーの人達はすごく優しいです。

でも山の上に家があるのはびっくりしました。いいところもあるけど怖いところもありました。殺人事件が多いということはびっくりしましたしちょっと怖いな—と思いました。

ペルーの料理は日本と全然違うし美味しそうでした。災害がきた時机の下に隠れないということは日本と違うところだな—と思いました。ペルーの信号は人でびっくりしました。日付は同じだけど季節と時間は反対でそれも日本と違うところなんだな—と思いました。

ペルーのお金も全然違いました。言葉もやっぱり日本と全然違うくて、日本とペルーは違うところがいっぱいあるということが知れました。学校は幼稚園の子から高校生まで一緒に学校と—いて何年も一緒に学校で飽きないのかな—と思いました。ずっと一緒に学校と聞いてびっくりしましたしそれも日本と違う—と思いました。美沙子さんは、もともと日本で住んでいたということもわかりました。

私はどこの国に行きたい!!!と思うことはあまりないけどペルー—に行きたいな—と思いました。ペルーの—い—ろんなことが知れました。まだペルーの知らないことはいっぱいあるのでもっと知りたいな—と思いました。

ペルーの学習を終えて

美沙子さんに質問を聞けるとかは思っていなかったから、聞いてよかったです。

避難所で食料を出しますか。の質問は、多分自分だったので、自分の質問を聞いてもらえてよかったです。私が質問の中で印象に残った質問は、日本ではすぐに地震のときは机の下に隠れたりするけど、ペルーの教室では電圧が高いからパソコンの電源を切る、部屋の電気を消すなどをしているのが、真逆だな。—と思いました。あと1つは、学校の人数は約350人—ということに驚きました。幼稚園から高校3年生まで通っているのに、なぜ350人—なんだろう。—と思いました。また、違う国や、県で、クロスロードをしたいです。

資料①:授業後の子供たちの感想(一部抜粋)

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

学習を進めていく中で「ペルーも地震が多いのかな」と自分たちの暮らしと比較する子供が現れはじめた。また、「これってペルーだけの文化?」という質問が出てくることも増え、ペルーと日本の違いに注目するだけでなく、日本以外の国にとって当たり前のことなのか、ペルー独特の文化なのかを考える姿も見られるようになった。

単元導入時は一面的な姿だけを見て、それが全てだと捉えるような言動や自分の当たり前とちがうことに拒否感を示すような言動が多かったが、単元が進むにつれ、目にした異文化を俯瞰的な視点で捉えようとする姿が見られるようになった。

料理名を覚えようとしたり、簡単な挨拶を覚えようとしたりする姿も見られた。

【授業を通じた途上国・異文化・多文化共生等への意識の変容】

(授業前)

異文化等に触れる機会はほとんどなかった子供たちである。外国籍の子供が他学年にはいるが、本学年には在籍していないため、あまり関わることはなかった。外国に関する知識も外国語活動の授業で得た知識程度であった。

単元前半で見せた写真にも、初めて見る文化や風習に「やば」「なにこれ」という肯定的には見えない反応が多かった。

(授業後)

異文化に対する見方が大きく転換した子供が多くいた。先述したが、初めて見る文化や風習に対しても「日本と違う」「これはペルーだけの文化なのかな」「他の国はどうなっているのかな」という見方をする子供が増えた。

また、クロスロードゲームの反応を比較しながらペルーの子供たちの考えを知り、その内面にも迫ることができた。美沙子さんに質問した中の回答に「知らない人でも気軽に声をかける」という国民性を知ることができる回答があった。それに対し「日本にはそんな文化あんまりないかも」「これってしたくてもできないんよなあ」とペルーの人たちへの尊重の気持ちが見える発言も見られた。

【8】自己評価

1. 苦労した点	<p>クロスロードゲームで反応の違いを見て、そこから文化や価値観の違いに迫る計画であったが、数字だけを見て、子供たちなりに予想はしても、それはやはり予想でしかないので、そのまま学習を終えていくことはできないと感じた。</p> <p>そのため、急遽ラ・ビクトリア校の日本語クラスの先生である美沙子さんをお願いをして、クロスロードゲームから話し合ったことをまとめ美沙子さんに質問して回答してもらうことにした。その回答により、予想に対するある程度のペルーの人たちを取り巻く環境や考え方を知ることができ、理解を深めていくことに繋げることができた。</p>
2. 改善点	<p>クロスロードゲームに使用する質問を11問作成した。後半に進むにつれ、視点が個人視点(自分は個人としてどのような行動をとるか)から公的な視点(自分が避難所の責任者だったらどのような行動をとるか)になっていくように構成した。個人視点の質問には反応の大きなちがいは見られなかったが、公的な視点の質問には、違いが見られた。</p> <p>反応の違いを顕著に見せるのであれば、公的な視点の質問を増やすことを考慮しても良いかもしれない。</p>
3. 成果が出た点	<p>ペルーの子供たち、日本の子供たちで同一教材を用いて授業実践を行った。同じ質問に答えているため、子供たちは自分たちと比較したいという意識を強く持つことができていた。</p> <p>反応の違いを見ることで、子供たち自ら「なぜちがうのか」「日本とは何がちがうのか」を探ろうとする姿が見られた。</p> <p>休憩時間や隙間の時間を利用して、ペルーについて調べ、質問してくるような姿も見られた。</p>
4. 備考	特になし。

添付資料:

Energucijadas En La Prevención De Desastres

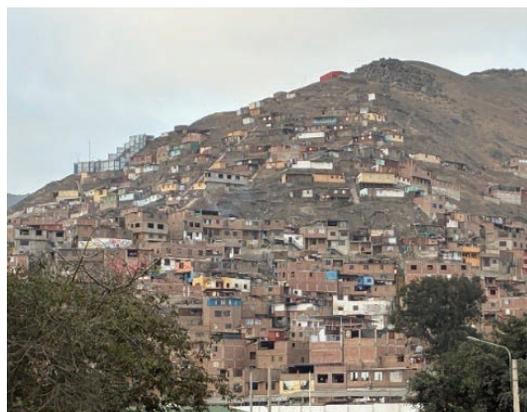
資料③:使用したクロスロードゲーム

クロスロードゲーム	yes	no	
1 地震が起きて、避難している途中で大事な財布を家に忘れたことに気づきました。取りに帰りますか。	2	28	
2 広場で遊んでいて地震が起きました。家には大事なペットがいます。家に迎えに行きますか。	28	2	
3 家で過ごしていると地震が起きました。公園で遊んでいるはずの8歳の妹が帰ってきません。1人で避難所に向かいますか。	6	24	
4 家で寝ていると地震が起こり電気が止まりました。玄関に行くとき暗くてつがが見つかりません。裸足で避難しますか。	2	28	
5 避難所に向かって走っている途中、地面に座り込んでいる近所のおばあちゃんを見かけました。声をかけますか。	20	10	
6 家でテレビを見ながら夕ご飯ができるのを持っていると、小さい地震が起こりました。おうちの人は「これくらいよくあることだよ」と言って料理を続けています。このままテレビを見続けますか。	22	8	
7 地震が起きたので、家族で坂の上にある避難所に向かいました。車で避難しようとお家の人が言いました。車で避難しますか。	20	10	
8 避難した後、近くのお店の前を通ると誰もいないお店の中に食料が見えました。横にはお金を空かして置いてある弟がいます。お金は地震のせいではありません。食料を取りますか。	18	12	
9 地震が起きたので、防災バッグをもって避難所に行きました。自分たちは三分の水と食料を持っていますが、周りの家族は防災バッグを持っていないようです。お腹が空きました。みんなの前で水と食料を出しますか。	26	4	
10 あなたは避難所の責任者です。避難所には500人います。非常食は今100人分しかありません。列に並んだ順番に配るべきだという意見が出てきました。この意見で非常食を配りますか。	2	28	
11 あなたは避難所の責任者です。今日は1人一個おにぎり(パン)を配ります。そこに母親と少年がやってきました。2つわつそうすると「自宅に小さい妹と足の不自由なおばあちゃんがいる」と言いました。おにぎり(パン)を4つ配りますか。	7	21	

資料④:ペルーと日本の回答結果比較

	クロスロードから考えたこと	美沙子さん	美沙子さんに聞いてみたいこと	美沙子さん
1	ペルーの人たちは温厚な人が多いですか。動物を大切にすることがありますか。	はい、ペルーの人たちは温厚な人が多いです。私も何度も知らない人から親切さがほめてくれていることを指摘されたことがあります。(あぶないよー、気を付けて!) 個人差はありますが、ペットを大切にしている人が多いです。	1 山にたてている家が壊れたのを見たことはありますか。	リマではほとんど雨がふりませんが、ペルー国内の別の地域では山の斜面がくずれている映像をニュースで見ました。
2	なぜ避難所で食料を出す人が多かったのだと思いますか。	ペルーの人は雨りの目を気にする人が少ないからだだと思います。	2 なぜラ・ヴィクトリア校で働くことになったのですか。	私に子供がふたりいるのですが、日本にいるペルー人の友達から日本からペルーに行くならこの学校! とおすすめてくれました。はじめは保護者として、子供をラ・ヴィクトリア校に連れて行ったのですが、校長先生に誘われて私も働くことになりました。
3	ペルーの人たちは優しさを感じました。ペルーの人のやさしさについて知りたいです。	親切さがほめてくれるよ〜とすれ違いざまに言ったり、重たい荷物を持ってたらすっさと手伝ってくれたり、優先席じゃなくてもバスの中でお年寄りに席を譲ります。黙って見守るタイプのやさしさではなく、自分から行動するダイレクトなやさしさだと思います。	3 美沙子さんなら避難所で食料を出しますか。	私なら人の目が気になるので、隠れて食料を出すと思います。
4	ペルーの人たちは家を建てる人数も私たちと比べて多かったんです。それは8歳でまだ小さいから建てる行くと考えたのですか。	家は大切な家族だからだと思います。	4 ペルーの学校で避難訓練はありますか。	はい、年に何度かあります。学校だけではなく、地区内すべてで行うので、町中でアラームがなります。
5	なぜペットを建てる人がこんなに多いんですか。	ペットも大切な家族だからだと思います。	5 ラ・ヴィクトリア校は全校で何人いますか。	約350人です。
6	ペルーの人たちには災害の時の合言葉みたいなものはありますか。(日本は津波でんごんこという合言葉があります。)	合言葉はありませんが、静かに歩いて避難することは教えています。	6 ラ・ヴィクトリア校で厳しいルールだなと思ったことはありますか。みんなそのルールを守っていますか。	休み時間が短いと思います。はい、基本的にみんなルールを守っています。
7	災害に起きた時に「絶対にする事」というような教えはありますか。	電圧が高いペルーの教室では、パソコンの電源を切る、部屋の電気を消すということをしています。地震の時には机の下に隠れるということも言われています。各教室には「安全な場所」と言われている場所(多くの場合は太い柱のある場所)に集まって、そのあと広い場所に避難することになっています。	7 ラ・ヴィクトリア校で先生をしていてうれしかったことはありますか。	たくさんあります! 子供たちが頑張ってる姿を見たとき、嬉しそうなお手紙を見たとき、勉強した言葉や文字を使ってお手紙をくれるとき、学校以外で私を見かけたから、わざわざ遠くから走って来てあいさつしてくれるとき etc
8	避難バッグはどの家にもありますか。	家庭によります。	8 ペルーに移住して治安が悪いと感じたことはありますか。	私自身は危ない目にあったことはないですが、ニュースでは毎日放送されています。
9	ペルーの人たちは優しいという考えが出ました。これはキリスト教はどれくらい関係していますか。	関係しているかもしれませんが、ペルーはカトリックというキリスト教です。この宗教の十字架は国旗や算数のように小学校からカリキュラムに入っています。考え方や行動に宗教観が入ってくることはよくあると思います。	9 ペルーのいいところは何か。ペルーの好きな食べ物は何ですか。ペルーの生活で慣れないことはありますか。	知らない人同士が声をかけあうところ。くだものおいしいところ。ペルーの音楽やダンスが素敵なお店。好きな食べ物は何ですか。ペルーの生活で慣れないことはありますか。
10	ペルーの人たちはどれくらいキリスト教を大切にしていますか。	個人差はありますが、ペルーにある祝祭日はほとんどがキリスト教に由来した日です。家庭によっては毎週末教会に行く人もいます。とくにクリスマスはペルーでは大きなイベントで、家、モールや学校などいろいろな場所にクリスマスツリーやナシメントと呼ばれるイエスキリストが誕生した瞬間を再現した人形が飾られています。私たちの学校でもほとんどの教室にクリスマスツリーがあります。学校では4週間かけてクリスマスを楽しみます。日本に比べて多くの基金や寄付があるのも宗教を大切にしているからかもしれません。	10 美沙子さんの事は何か。	ペルーの日本語学習者が日本語や日本文化を通して、幸せになってほしいです。

資料⑤:クロスロードゲーム後の美沙子さんへの質問と回答



写真③:単元導入時に子供たちに提示した写真(一部抜粋)

参考資料:株式会社明治HP「比べてみよう!世界の食と文化ーペルー共和国」

<https://www.meiji.co.jp/meiji-shokuiku/worldculture/peru/>